党綱領はどうつくられなければならないか

社会民主党綱領草案と解説

綱　領　草　案

Ａ　一　ロシアでは大工場がますます急速に発達して、小クスターリと小農を零落させ、彼らを無産の労働者に転化させ、ますます多くの人民を都市や工場および工場村・町に追いやっている。

二　資本主義のこの成長は、ひとにぎりの工場主、商人、地主のあいだに富と贅沢が途方もなく増大し、また労働者の貧窮と抑圧がさらにいっそう急速に増大していることを意味している。大工場で採用されている生産上の改良と**機械**は、社会的労働の生産性の向上を促進しながらも、労働者にたいする資本家の権力を強め、失業を増加させ、それとともにまた労働者を無防禦の状態におくことに役だっている。

三　だが、労働にたいする資本の抑圧を最高度にまで高めることによって、大工場は労働者という特殊な階級をつくりだしている。この階級は資本と闘争する可能性をもつようになる。なぜなら、この階級の生活条件そのものが彼らと彼ら自身の経営とのいっさいの結びつきを破壊しており、また共同の労働によって労働者を結合し、彼らを工場から工場へと転々させることによって、働く人間の大衆を打って一丸としているからである。労働者は、資本家にたいする闘争をはじめており、彼らのあいだには団結への強い志向が現れている。労働者の個々の暴動から、ロシア労働者階級の闘争が成長しつつある。

四　資本家階級との労働者階級のこの闘争は、他人の労働によって生活しているすべての階級にたいする、また、あらゆる搾取にたいする闘争である。この闘争は、政治権力が労働者階級の手にうつり、すべての土地、道具、工場、機械、鉱山が、社会主義的生産の組織のために、全社会の手にひきわたされるときに、はじめておわることができる。社会主義的生産のもとでは、労働者によって生産されるすべてのものと、生産上のすべての改良とは、勤労者自身の利益につかわれなければならないのである。

五　ロシアの労働者階級の運動は、その性格と目的とから見て、万国の労働者階級の国際的（社会民主主義的）運動の一部となっている。

六　自己解放のためのロシアの労働者階級の闘争上の主要な障害は、無制限な専制政府と、なんびとにたいしても責任を負わないその官吏とである。この政府は地主と資本家の特権にもとづき、また彼らの利益に奉仕することにもとづいて、下層の諸身分を完全な無権利の状態にひきとどめ、そうすることによって労働者の運動を束縛し、全人民の発展を阻止している。だから、自己解放のためのロシアの労働者階級の闘争は、必然的に専制政府の無制限の権力にたいする闘争を呼びおこすのである。

Ｂ　一　ロシア社会民主党は、労働者の階級的自覚を発達させ、彼らの組織化に助力し、闘争の任務と目標とを指示することによって、ロシアの労働者階級のこの闘争を援助することを、自分の任務として宣言する。

二　自己解放のためのロシアの労働者階級の闘争は政治闘争であって、その第一の任務は政治的自由を獲得することである。

三　だから、ロシア社会民主党は、労働運動から分離することなしに、専制政府の無制

限の権力に反対し、特権的な地主貴族の階級に反対し、また競争の自由を拘束する農奴制と身分制のすべての残存物に反対するあらゆる社会運動を支持するであろう。

四　これに反して、ロシア社会民主労働党は、無制限の政府とその官吏との後見によって勤労階級に恩恵をほどこそうとしたり、資本主義の発展を、したがってまた労働者階級の発展を阻止しようとするあらゆる志向にたいしてたたかうであろう。

五　労働者の解放は、労働者自身の事業でなければならない。

六　ロシアの人民にとって必要なのは、無制限の政府とその官吏からの援助ではなくして、この政府の圧制からの解放である。

C　これらの見解から出発して、ロシア社会民主党は、なによりもまず、つぎのことを要求する。

一　憲法の作成のために、すべての市民の代表者からなるゼムスキー・ソボールを召集すること。

二　信教と民族のいかんをとわず、二一歳にたっしたすべてのロシア市民にたいする普通直接選挙権。

三　集会、結社、ストライキの自由。

四　出版の自由。

五　身分制の撤廃と、すべての市民の完全な法律上の平等。

六　信教の自由とすべての民族の同権。戸籍登録の仕事を警察とは無関係な、独立した文官の手にうつすこと。

七　長官に訴願することなしに、あらゆる官吏を裁判所に告訴する権利をすべての市民にあたえること。

八　旅券の廃止、完全な移動と移住の自由。

九　営業および職業の自由とツンフトの撤廃。

D　労働者のために、ロシア社会民主党は、つぎのことを要求する。

一　すべての工業部門に、資本家と労働者から同数えらばれた裁判官で構成する工業裁判所を設置すること。

二　法律によって労働日を一昼夜八時間に制限すること。

三　法律による夜間作業と交替制との禁止。一五歳未満の児童労働の禁止。

四　法律による休息日の制定。

五　工場法および工場監督制度をロシア全土のすべての工業部門と官営工場に、さらに家内仕事に従事するクスターリにも適用すること。

六　工場監督官は独立の地位をもつべきであって、大蔵省の管轄下におかれてはならない。工業裁判所の裁判官は、工場法の履行の監視については工場監督官と同等の権利をあたえられる。

七　どこででも商品による賃金の支払を無条件に禁止すること。

八　労働者の選出代表が、賃金率の適正な設定、製品の検査、罰金の支出、労働者の工場社宅を監視すること。　労働者の賃金からのすべての控除は、どういう名目のためになされたものかを問わず（罰金、仕損じ品、その他）合計して１ルーブリにつき１０コペイカをこえてはならないという法律。

九　労働者の傷害にたいして工場主に責任をとらせ、労働者がわに過失があることを挙

証する義務を工場主に課する法律。

十　学校を経営し、労働者に医療上の援助をあたえることを工場主の義務とする法律。

Ｅ　農民のために、ロシア社会民主党は、つぎのことを要求する。

一　土地買取賦金を廃止し、支払ずみの買取金を農民に補償すること。国庫に余分に払いこまれた金額を農民に返還すること。

二　一八六一年に農民から切り取られた土地を彼らに返還すること。

三　農民地と地主地にたいする課税の完全な平等。

四　連帯保証制と、農民にたいして自分の土地の処分を拘束しているすべての法律との廃止。

綱領の解説

綱領は三つの主要な部分にわかれている。第一の部分では、綱領ののこりの部分の根拠となっている見解がみな述べられている。この部分では、労働者階級が現代社会でどんな地位を占めているか、労働者階級の工場主との闘争がどんな意味と意義をもっているか、また、ロシア国家における労働者階級の政治的地位がどんなものであるかということが、しめされている。

第二の部分では**党の任務**が説明され、党がロシアにおけろ他の政治的諸流派にたいしてどんな関係にあるかということが、しめされている。ここでは、党と自分の階級利害を自覚しているすべての労働者との活動はどんなものでなければならないか、また彼らはロシア社会の他の階級の利害および志向にたいしてどんな態度をとるべきか、ということについて述べている。

第三の部分は、党の実践的要求をふくんでいる。この部分は、さらに三つの部門にわかれている。第一の部門は、一般的な国家改造の要求をふくんでいる、第二の部門は、労働者階級の要求と綱領をふくんでいる。第三の部門は、農民のための要求をふくんでいる。

……

Ｂ　一　綱領のこの項目はもっとも重要な、もっとも主要なものである。なぜなら、それは労働者階級の利益をまもる党の活動と、すべての自覚した労働者の活動とが、どんなものでなければならないかを、指示しているからである。それは、社会主義の志望、人間による人間の永久の搾取を除去しようとする志望が、大工場によってつくりだされた生活条件から生まれる人民運動と、どのようにしてむすびつかなければならないかを、指示している。

党の活動は、労働者の階級闘争に助力することでなければならない。党の任務は、なにかの当世流行の、労働者援助の手段を頭のなかからあみだすことではなくて、労働者の運動にくわわり、その運動のなかに光明をもちこみ、労働者がすでに自分でやりはじめているこの闘争において、彼らを援助することである。党の任務は、労働者の利益をまもり、労働者運動全体の利益を代表することである。では、労働者をその闘争において援助するということは、どういうことに現れなければならないだろうか？

綱領は、この援助は第一に、労働者の階級的自覚を発達させることでなければならない、と言っている。われわれはすでに、工場主との労働者の闘争が、どのようにしてブルジョ

アジーとプロレタリアートとの階級闘争になるかについて、述べた。

そのさいわれわれが述べたことからして、なにを労働者の階級的自覚と解すべきかが、結論される。労働者の階級的自覚とは、労働者が、自分の地位を改善し、自分の解放をかちとる唯一の手段は、大工場によってつくりだされた資本家や工場主の階級との闘争にあるということを、理解することである。さらに、労働者の自覚とは、ある一国の全労働者の利害は同一で一致しており、彼らの全体は社会の他のすべての階級と別個の一つの階級をなしているということを、理解することを意味している。最後に、労働者の階級的自覚とは、自分の目的を達成するためには労働者は、地主と資本家が国政にたいする影響力をかちとったし、いまなお引きつづいてかちとっているのと同じように、彼らもまた国政にたいする影響力をかちとらなければならないという点を、労働者が理解するということを意味している。

では、労働者はどういう道すじで、すべてこういう点の理解を獲得するようになるのか？労働者は、彼らが工場主にたいして開始している闘争そのもの、大工場の発展につれてますます発展し、激化し、ますます多数の労働者をひきこんでいく闘争そのもののうちから、たえずそうした理解をくみとることによって、それを理解するようになるのである。資本にたいする労働者の敵意が、自分たちの搾取者にたいする漠然とした憎悪感や、自分かちの抑圧や奴隷状態の漠然とした意識や、資本家に**復讐しよう**とする願望、にしか表現されなかった時代があった。その当時には闘争は、建物を破壊し、機械をぶちこわし、工場の上役をなぐりなどした労働者の個々の暴動に表現されていた。これは、労働運動の**最初**の、端初的形態であった。しかも、この形態は必然的であった。なぜなら、いつも、そして、どこででも資本家にたいする憎悪が労働者に自己防衛の志望をめざめさせる最初の動機であったからである。だが、ロシアの労働運動はすでに、こうした端初的形態からぬけだすまでに成長した。労働者は、資本家にたいする漠然とした憎悪のかわりに、労働者階級と資本家階級との利害の敵対性をすでに理解するようになった。彼らは、不明瞭な抑圧感のかわりに、資本が**まさになんによって、また、まさにどのようにして**彼らを圧迫しているかを、すでに検討するようになった。そして彼らは、あれこれの抑圧形態に反対し、資本の圧迫に制限をくわえ、資本家の貪欲にたいして自分を防衛している。彼らはいまでは資本家に復讐するかわりに、譲歩の獲得のための闘争にうつっている。彼らは資本家階級にたいしてつぎつぎと要求を提出しはじめ、作業条件の改善や賃金の引上げや、労働日の短縮を要求している。どのストライキも、労働者の全注意といっさいの努力とを、労働者階級がおかれている条件のうちの、ときにはこの点、ときにはあの点に集中させる。どのストライキも、これらの条件の討議をよびおこし、労働者がこれらの条件を評価し、ここでは資本の圧迫はどの点にあるか、どんな手段でこの圧迫にたいしてたたかうことができるかを、解明するのをたすける。どのストライキも、労働者階級全体の経験を豊富にする。ストライキが成功すれば、それは労働者階級に労働者の団結の力をしめし、他の者を刺激して、仲間の成功を利用するようにさせる。ストライキが失敗すれば、それは失敗の原因の討議を呼びおこし、よりよい闘争方法を探求させる。いまロシアのいたるところで、労働者がこのように、自分の緊切な必要のためのたゆみない闘争、譲歩の獲得のための闘争、生活条件、賃金、労働日の改善のための闘争にうつりはじめているところに、ロシアの労働者がなしとげた巨大な前進がある。だから、社会民主党とすべての自覚した労働者との

主要な注意は、この闘争にたいし、この闘争への協力にむけられなければならない。労働者にたいする援助は、その充足のために闘争しなければならないもっとも緊切な必要を指示すること、あれこれの労働者の状態をとくに悪化させている諸原因を検討すること、それにたいする違反（と資本家の欺瞞的な策略）のために労働者が二重の略奪をこうむることがごくしばしばである工場法や工場規則を説明することでなければならない。援助は、労働者の要求をいっそう正確に、いっそう明確に表現し、それらの要求を公然と提出すること、抵抗のための最良の時機をえらぶこと、闘争方法を選択すること、あいたたかう敵味方双方の状態と力を考量すること、もっとよい闘争方式（もし直接ストライキにうつるべきでないとすれば、おそらくは、事情に応じて、工場主あてに手紙をだすとか、監督官または医師に申しでるとかする、などいうような方法）をえらぶことはできないかどうかを検討することでなければならない。

ロシアの労働者がこういう闘争へうつっているのは、彼らが巨大な前進をなしとげたことをしめしている、とわれわれは言った。この闘争は、労働運動を大道に立たせ（ひき出し）、労働運動のこんごの成功の確実な保障として役だっている。この闘争によって働く人々の大衆は、第一に、資本主義的搾取の方法をつぎつぎと見わけ、検討することをまなび、これらの搾取方法を法律とも、自分たちの生活条件とも、資本家階級の利害とも比較考量することをまなんでいる。搾取の個々の形態やばあいを検討することによって、労働者は全体としての搾取の意義と本質とを理解することをまなび、資本による労働の搾取にもとづく社会体制を理解することをまなんでいる。第二に、この闘争で、労働者は自分の力をためし、団結することをまなび、団結の必要と意義とを理解することをまなんでいる。この闘争の拡大と、衝突の頻発とは、不可避的に闘争を拡大させ、はじめはある地方の労働者のあいだに、ついで全国の労働者のあいだ、全労働者階級のあいだに統一の感情、自分たちの連帯性の感情を発達させる。第三に、この闘争は、労働者の政治的意識を発達させる。働く人々の大衆は、なんらかの国家的問題について熟考するひまも可能性ももたない（もちえない）ような状態に、生活そのものの条件によっておかれている。だが、日常の必要のために労働者が工場主にたいして行う闘争は、おのずから、また不可避的に労働者を国家的、政治的問題に、すなわちロシア国家はどのようにして統治されているか、法律や規則はどのようにして発布され、それらはだれの利益に奉仕しているかという問題に、つきあたらせる。工場内のどの衝突も、必然的に、労働者を法律に、また国家権力の代表者に衝突させる。労働者はそこではじめて「政治演説」に耳をかたむける。たとえはじめには工場監督官の口からであろうとも。工場監督官は労働者にこう説明する。工場主が労働者をしぼりぬくのにもちいた策略は、所轄の官庁の認可を経た規則――労働者をしぼりぬくことを工場主の心まかせにしているところの――の正確な趣旨にもとづくものである、と。あるいは、工場主はただ自分の権利を行使しているにすぎず、国家権力によって認可されまた保護されている、これこれの法律をよりどころとしているのだから、工場主の圧迫はまったく適法的なものである、と。ときには、監督官諸氏の政治的説明に、さらにいっそう有益な大臣殿の「政治的説明」がつけくわえられる。大臣殿は、労働者の労働によって工場主が幾百万もの金をもうけていることにたいして、労働者は工場主に「キリスト教的愛」の感情をささげる義務がある、ということを労働者に注意する。そのあとで、国家権力の代表者たちのこういう説明のうえに、また、この権力はだれの利益のために働

いているかということを労働者が直接に知ったうえに、さらに社会主義者のリーフレットや、その他の説明がつけくわわる。そこで、労働者は、こういうストライキによって、すでに完全に政治的教育をうけるのである。彼らは労働者階級の特殊の利害だけでなく、労働者階級が国家のうちで占める特殊な地位をも理解することをまなぶ。このようにして社会民主党が労働者の階級闘争にあたえることのできる**援助**は、つぎの点になければならない。すなわち、労働者のもっとも緊切な必要の充足のための闘争において労働者に助力することによって、労働者の階級的自覚を発達させること、これである。

第二の**援助**は、綱領のなかで述べられているように、労働者の組織化に助力することでなければならない。われわれがいま記述した闘争は、必然的に労働者の組織化を必要とする。ストライキのため、すなわち、それをいっそうの成功をもって行うためにも、ストライキ参加者の応援資金をあつめるためにも、労働者共済基金を組織するためにも、労働者のあいだで煽動を行ったり、彼らのあいだにリーフレットまたは声明書、檄文を配布する等々、のためにも組織化が必要となる。警察や憲兵の追求から自分の身をまもり、労働者のすべての団結、そのすべての連絡を警察や憲兵にかくし、労働者のために書籍、小冊子、新聞の配布を組織する等々のためには、組織化はさらにいっそう必要である。すべてこういう点での援助――これが党の第二の任務である。

第三の援助は、闘争の真の目標を指示すること、すなわち資本による労働の搾取は、どういう点にあるのか、この搾取はなににもとづいて維持されているのか、土地および労働用具の私的所有はどのようにして労働者大衆を貧窮におとしいれ、彼らに、自分の労働を資本家に売ること、労働者の労働によってその生活費をこえて生産される全余剰をただで資本家にあたえることをよぎなくさせるかを、労働者に説明すること、さらに、どのようにしてこの搾取は不可避的に資本家にたいする労働者の階級闘争へみちびくか、この闘争の条件と終局の目標はどういうものであるかを労働者に説明することである。一言でいえば、この綱領のうちで簡潔に指示されている点を説明することである。

Ｂ　二　労働者階級の闘争は政治闘争であるというのは、どういう意味であるか？　それは、労働者階級は国政や国家統治や、法律の発布やにたいする影響力をかちとらなくては、自己の解放闘争を行うことができないという意味である。ロシアの資本家たちはすでにずっと以前からこういう影響力の必要なことを理解していた。そして、われわれは、警察法のありとあらゆる禁止にもかかわらず、資本家たちがどんなふうにして国家権力に影響をあたえる幾千もの方法を発見することができたか、また、この権力がどのように資本家階級の利益に奉仕しているかを、しめした。このことからひとりでに出てくる結論は、労働者階級にとっても、国家権力に影響をあたえることをほかにしては自分の闘争を行うことは不可能であり、自分の運命の恒久的な改善をかちとることさえ不可能であるということである。

〈第二巻　社会民主党綱領草案と解説　P77~99　1895~1896 年に獄中で執筆〉

コメント

これは、科学的社会主義の党の綱領の見本である。レーニンは解説で「Ｂ　一」について、「綱領のこの項目はもっとも重要な、もっとも主要なものである。なぜなら、それは

労働者階級の利益をまもる党の活動と、すべての自覚した労働者の活動とが、どんなものでなければならないかを、指示しているからである。」と述べ、①「労働者は、彼らが工場主にたいして開始している闘争そのもの、大工場の発展につれてますます発展し、激化し、ますます多数の労働者をひきこんでいく闘争そのもののうちから、たえずそうした理解をくみとることによって、それを理解するようになる」こと、「労働者にたいする援助は、その充足のために闘争しなければならないもっとも緊切な必要を指示すること、…でなければならない。援助は、労働者の要求をいっそう正確に、いっそう明確に表現し、それらの要求を公然と提出すること、抵抗のための最良の時機をえらぶこと、闘争方法を選択すること、あいたたかう敵味方双方の状態と力を考量すること、もっとよい闘争方式をえらぶことはできないかどうかを検討することでなければならない。」こと、つまり、労働者のもっとも緊切な必要の充足のための闘争において労働者に助力することによって、労働者の階級的自覚を発達させること、②労働者の組織化に助力すること、③闘争の真の目標を指示すること、この闘争の条件と終局の目標はどういうものであるかを労働者に説明すること、つまり、搾取を、階級闘争を、労働者階級の解放を、唯物史観を事実に基づき労働者に説明することの重要性を強調している。

このことは、日本革命を実現するためにもαでありωである。